

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 122 ※記入不要	<b>提案機関名</b> JA全農かながわ
<b>要望問題</b> TMR 飼料（混合飼料）の保存性の改善について	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 <背景> 牛群管理（家族経営規模）は産乳成績向上、飼料費の低コスト化等により、経営の改善を図る方向に進んでいる。その一策として、TMR 方式があるが、製造設備費等に多額の資金が必要であるため、現状では農家共同体制、民間資本体制で対応し、その周辺に設置されている。現状の TMR 製造は1日1回農家配送し、給餌も同様である。製品は水分含量を40～50%前後にし、品質の均一化、嗜好性の向上を図っている。しかし、この水分含量では、時期的には変質・腐敗しやすく、嗜好性、摂取量に影響する。 <内容> 研究課題 酪農経営は高能力牛飼養、簡易（容易）飼料給与体系に移行の傾向にあるが、この TMR 飼料の保存性の改善が普及性、流通形態、飼料価格に大きく影響する。経営の低コスト化を図るため、保存性が高く、嗜好性も維持される製法、水分含量等を検討調査願いたい。 <対象地域> 県内全域	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>研究対応区分</b>	<input checked="" type="checkbox"/> ①研究所対応    ②委託研究    ③共同研究    ④その他
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業総合研究所（ ②根府川試験場    ③三浦試験場    ④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所    ⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場    ⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	畜産研究所
部 署	畜産工学部
<b>対応区分</b>	①実施    ②実施中    ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可
<b>試験研究課題名</b> （①、②、④の場合）	高泌乳牛に対する飼料給与形態が乳量・乳質に及ぼす影響（H5）
<b>対応の内容等</b>	TMR 飼料の保存性の改善については、2次発酵による嗜好性の低下防止を目的として各種の有機酸の利用や保存形態について平成5年度に試験を実施していますので、この報告を参考にしてください。
<b>解決予定年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>備考</b>	